

巻 頭 言

『立教ビジネスレビュー』創刊号によせて

立教大学経営学部の研究成果を世に問う媒体として『立教ビジネスレビュー』をここに創刊することになった。まことに喜ばしい限りである。関係者の多大なご尽力に敬意を表するとともに、感謝申し上げる。

経営学部は、立教大学の100年にわたる商学・経営学分野での教育と研究の伝統と蓄積を継承しつつ、経済学部経営学科と社会学部産業関係学科を母体として、2006年度に池袋キャンパスに設置された。経済学部、社会学部という異なる学部にあって、それぞれ歴史を培ってきた二つの学科の「合併 (Merge)」によって、新たな価値を生み出すべく設置された新学部である。

経営学部の設置母体の一つである経済学部経営学科は、経営学と会計学を基礎としたビジネス・マネジメントに関する教育・研究をこれまで行ってきた。もう一方の設置母体である社会学部産業関係学科は、人事労務を中心とする産業関係 (Industrial Relations) をベースとしつつ、教育・研究の対象範囲を広げて、企業のマーケティング活動や消費者行動、企業の社会的責任などといった産業と地域社会との関連、あるいは急速に変貌をとげた産業社会の価値観に対応する経営戦略論など、企業活動全般を扱うようになってきた。両学科のこのような伝統と蓄積を継承しつつ、新たな経営学部は、ビジネス・マネジメントに関する教育に新しい意味でのインダストリアル・リレーションズ教育を加えることで、ダイナミックに変化する現代の経営環境に、より幅広い視座からアプローチするべく学際的な経営学領域の教育・研究を目指している。

とりわけ学部教育においては、伝統的な学部名称であっても、21世紀社会の要請に応える他大学には例を見ない教育カリキュラムを持つ新しい経営学部を目指している。立教大学らしい、倫理観に優れて社会に貢献できる人材であるとともに、英語コミュニケーション能力を兼ね備えた「グローバル・バリューを有する新しいビジネスリーダー」の育成が、学部教育の目標である。

これらの目標のためにも、また学際的な新たな経営学の樹立のためにも、本誌が重要な役割を担うことを確信する次第である。

2008年6月

立教大学経営学部長 白石典義